

名古屋大学大学院多元数理科学研究科
平成28年度教育・研究活動
年次報告書

平成29年10月

名古屋大学大学院多元数理科学研究科

(5) 授業時間割

平成28年度前期時間割（数理学科）

	1年生	2年生	3年生	4年生
月	1	数学展望Ⅰ（糸）	解析学要論Ⅰ（菱田）	幾何学統論（小林）
	2	数学演習Ⅰ （笹平・教務助教4名）		
	3			確率論Ⅲ（林(正)）
	4			
火	1		代数学要論Ⅰ（古庄）	解析学統論（加藤）
	2			
	3	数学演習Ⅲ・Ⅳ （浜中・笹原・YLC特任教員）		解析学Ⅰ（寺澤）
	4			数理科学展望Ⅲ（藤江・太田・菅野）
水	1	現代数学基礎CⅠ（松本）	解析学要論Ⅱ（吉田）	数理解析・計算機数学Ⅲ（内藤）
	2			
	3			
	4			
木	1	現代数学基礎BⅠ（齊藤）	幾何学要論Ⅰ（白水）	代数学統論（伊山）
	2			
	3	複素関数論（永尾） ※全学教育科目	数学演習Ⅶ・Ⅷ	代数学Ⅲ（藤原）
	4		（佐藤・大久保）	幾何学Ⅲ（松尾）
金	1		数学演習Ⅸ・Ⅹ	
	2		（中島・久本）	数理物理学Ⅲ（浜中）
	3	現代数学基礎AⅠ（杉本）		応用数理Ⅰ
	4			（今井・織田・田中）

平成28年度後期時間割（数理学科）

		1年生	2年生	3年生	4年生
月	1			数理科学展望Ⅰ	
	2			(笹平・寺澤・小林)	数理物理学Ⅳ (柳田)
	3			現代数学研究 (岡田)	幾何学Ⅳ (太田)
	4				
火	1			代数学要論Ⅱ (高橋)	
	2				確率論Ⅳ (中島)
	3		現代数学基礎CⅢ (大沢)		数理科学展望Ⅳ (藤原・林(正)・Roy)
	4				
水	1		現代数学基礎CⅡ (伊師)	数理解析・計算機数学Ⅰ	数理解析・計算機数学Ⅳ (木村)
	2	数学演習Ⅱ (岩木・教務助教4名)		(久保・笹原)	
	3				
	4				
木	1		数学演習Ⅴ・Ⅵ	幾何学要論Ⅱ (糸)	代数学Ⅳ (行者)
	2		(松尾・柳田・泉)		解析学Ⅱ (菱田)
	3	数学展望Ⅱ (太田)	現代数学基礎BⅡ (金銅)		
	4				
金	1		現代数学基礎AⅡ (森吉)	解析学要論Ⅲ (津川)	
	2				
	3		計算数学基礎 (内藤・佐藤)		応用数理Ⅱ
	4				(井上・梅田・佐藤)

(4) 授業時間割

平成28年度前期時間割 (大学院)

		4年生と共通	大学院のみ
月	1	幾何学概論Ⅰ (小林)	
	2		
	3	確率論概論Ⅲ (林(正))	
	4		
火	1	解析学概論Ⅰ (加藤)	
	2		
	3	解析学概論Ⅲ (寺澤)	
	4	数理科学展望Ⅰ (藤江・太田・菅野)	
水	1	数理解析・計算機数学概論Ⅲ (内藤)	解析学特論Ⅱ (リシャル)
	2		トポロジー特論Ⅰ (川村)
	3		
	4		
木	1	代数学概論Ⅰ (伊山)	
	2		
	3	代数学概論Ⅲ (藤原)	
	4	幾何学概論Ⅲ (松尾)	
金	1		
	2	数理物理学概論Ⅲ (浜中)	代数学特論Ⅰ (デモネ)
	3	社会数理概論Ⅰ	
	4	(今井・織田・田中)	

平成28年度後期時間割（大学院）

		4年生と共通	大学院のみ
月	1		
	2	数理物理学概論Ⅳ（柳田）	
	3	幾何学概論Ⅴ（太田）	
	4		
火	1		
	2	確率論概論Ⅳ（中島）	
	3	数理科学展望Ⅱ（藤原・林(正)・Roy）	
	4		数理物理学特論Ⅰ（菅野）
水	1	数理解析・計算機数学概論Ⅳ（木村）	
	2		
	3		
	4		
木	1	代数学概論Ⅳ（行者）	
	2	解析学概論Ⅳ（菱田）	
	3		数理科学特論Ⅱ（ダルポ）
	4		
金	1		
	2		応用数理特論Ⅱ（永尾）
	3	社会数理概論Ⅱ	
	4	（井上・梅田・佐藤）	

VI-C 就職・同窓会委員会

現在の多元数理科学研究科、数理学科における就職関連の行事は、3月に開催される企業セミナーとミニ同窓会、そして6月に開催される「働くこと&インターンシップセミナー・数学教室ミニ同窓会」があり、OB・OG多数にご参加いただく当研究科独自の行事である。3月開催の企業セミナーとミニ同窓会は26年度まで12月に開催されていたものである。19年度までは2月に開催されていた企業セミナーを12月に開催されるようになった経緯として、19年度3月に委員長が同窓の先輩方と懇談の機会をもち、活動方針、開催時期を決めた。その際にとくに問題になったのは、企業セミナー、ミニ同窓会への学生の出席率の低さであった。従来通り2月開催では、学生はすでにどの会社に行くか、ターゲットをしばって活動しており、また講義期間中ではないため出席率が低くなると考えられた。11月または12月開催を検討して、12月開催に変更し、その結果参加者も増えた。志望会社をしばっていない段階でいろいろな会社の説明をきき、その後の懇親会で先輩方にリラックスした状況でさまざまな質問ができるなど参加者にとっても好評である。

平成25年9月13日に日本経済団体連合会より、「採用選考に関する指針」が公表され、「インターネット等を通じた不特定多数向けの情報発信以外の広報活動については、卒業・終了学年も入る直前の3月1日以降に開始する」と明記されているので、企業セミナー等は3月1日以降開催する、という方針に変更した。28年度は3月3日に開催した。しかしながら、学生の参加者数は依然減少気味である。ミニ同窓会は学生が就職活動にはいる前に、実際に社会で活躍されている先輩方と話しをすることにより、視野を広げるために重要な役割を果たしており、参加した学生からの評価が高いだけに残念である。学生に対するキャリア教育の一環として、6月に「働くこと&インターンシップセミナー・数学教室ミニ同窓会」を22年度より開催しているが、学生達にキャリアをどのように考え、自分にあった進路を実際に自分たちの前を歩んでいる諸先輩方の体験を聞き、いろいろな質問を投げかける事によって探ることの重要性を強調する必要があるように思われる。

数学の博士の学生の会社への就職は米国、ヨーロッパ、中国では一般的であるが、日本ではまだめづらしい。会社とのインターンシップなどは少しずつ参加者が増えてきている。活躍しているのは大変喜ばしい。このように博士の採用に積極的な会社も増えているので数年したら博士の学生の就職の状況は劇的に変化する可能性がある。理学部への求人の特徴として、リーマンショック直後も修士卒が欲しいという会社が多い。ある経営者の言葉として、「博士を取るのには提案力に期待して、修士を取るのにはその提案をサポートするために論文などを読む力に期待してである。経営者としての役割はそのような人たちと学部卒の人たちの仕事を創り出すことだ」があるが、これから日本が産業転換していく上で重要な役割を博士・修士の人材が果たして行く可能性を示唆している。多元数理科学研究科として、修士、博士といった高度な専門性を持つ社会で活躍できる人材を養成することは急務であると考えられる。学生および教員の意識を高めるために、「博士のキャリアパスを考える」と題して講演会および懇親会を開催し、27年度は6月12日、11月11日と2回開催したが出席がふるわず、現在別企画を検討中である。卒業生の田中祐一氏のご尽力による年1回の「アクチュアリー同窓会」も定着してきており、今年度は製造業の同窓生が集まる会を東京で開催した。

同窓生の尽力による企業との連携による講義も好評である。会社説明会、ミニ同窓会等同窓生の方々のご協力に深く感謝する次第である。

企業との連携による講義 (平成28年度)

統計・情報数理概論 I

前期 原 重昭 公益社団法人日本アクチュアリー会 正会員

統計・情報数理概論 II

前期 坪野 剛司 一般社団法人年金総合研究所 理事長
久保 知行 株式会社久保総合研究所 年金数理人
渡部 善平 エーオンヒューイットジャパン株式会社 シニアコンサルタント アクチュアリー

社会数理概論 I/II

前期 田中 祐一 トヨタファイナンス株式会社 主幹
今井 宜洋 有限会社 ITプランニング システム開発部 ソフトウェアエンジニア
織田 一彰 スローガン株式会社 ExecutiveFellow & Co-Founder

後期 井上 雄 株式会社日立製作所 知的財産本部戦略企画室 室長
梅田 英輝 アリッツ株式会社 代表取締役社長
佐藤 達雄 株式会社アーベルソフト 会長

応用数理特別講義 I/II

前期 森 健策 名古屋大学大学院 情報科学研究科 教授
柴田 隆文 株式会社NTTドコモ東海支社 法人営業部 部長
松井 一 豊田工業大学工学部 准教授
山田 博司 国立情報学研究所 学術ネットワーク研究開発センター 特任教授
松村 英樹 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 フィナンシャルエンジニアリング部 副参事

後期 佐藤 淳 名古屋工業大学大学院 情報工学専攻 教授
畔上 秀幸 名古屋大学大学院 情報科学研究科 教授
丹羽 智彦 トヨタ自動車株式会社 シャシー先行開発部 第1シャシー先行開発室 主幹
渡部 善平 エーオンヒューイットジャパン株式会社 リタイアメント&ベネフィット
時田 恵一郎 名古屋大学大学院 情報科学研究科 教授